

様式第6号（第9条関係）

大崎市地域自治体制整備実証事業交付金実績報告書

令和3年 4月19日

大崎市長 様

名 称 岩出山地域づくり委員会

所在地 大崎市岩出山字上川原町8番地

会長名 石 田 政 博

電話番号 0229-73-1274



令和2年4月1日付け大崎市指令（ま）第1号で交付決定を受けた大崎市地域自治体制整備実証事業交付金について、下記のとおり実施したので、大崎市地域自治体制整備実証事業交付金交付要綱第9条の規定により関係書類を添えて報告します。

記

- 添付書類 1 実証事業交付金事業実績書（様式第7号）
- 2 実証事業交付金収支決算書（様式第8号）
- 3 その他市長が必要と認める書類



団 体 名	岩出山地域づくり委員会 /
活 動 内 容	<p data-bbox="611 472 927 510">「相談・問い合わせ」→</p> <p data-bbox="699 517 1353 555">「各団体・機関・個人等」につなぐ。連携強化。</p> <p data-bbox="611 607 1366 730">◆今年度も、岩出山地区で活躍する多種多様な団体とのネットワーク構築に力を入れた。コロナ禍とはいえ、出来ることで繋がりを絶やさない事業の推進を心掛けた。</p> <p data-bbox="611 741 1366 909">一方で「コロナ禍で活動が出来ない」「教えてほしい」という団体や親交会長さんからの相談や問い合わせに、対応することが次への繋がりに結び付いたということもあった。</p> <p data-bbox="611 920 1366 1088">コロナ禍ということで、大塚製薬(株)さんからの提供品もあり、親交会長さんや区長さん、民生委員さんや子どもに関わる多くの方々に繋げて配布するという事業も「大きな繋がりづくり」となった。</p> <p data-bbox="611 1140 1347 1178">定期的な、親交会長・区長さん訪問を事業化。</p> <p data-bbox="611 1229 1366 1621">◆34の各親交会長さんとの連携が図られてくると見えてきたのが、相談場所がなく「今までのことを継続する」ことで精いっぱいそれが当たり前になっていた。もっと「持続可能な地域自治」に繋げるためにも、会長さん同士の話し合う場や、相談する場が必要。「環境の違う親交会同士で、共有することで見える課題もある」との意見もあった。委員会には、少なくとも経験者がいる。連携して一人に覆いかぶさる負担を軽減してあげられる相談機能があると良い。</p> <p data-bbox="611 1673 1347 1711">行政と「協働の関係性」づくり→役割分担へ</p> <p data-bbox="611 1762 1366 1977">◆オンラインでの各課担当者共有会を2回行った。 (6月13日、12月12日) 行政・社会福祉協議会・包括支援センターとの良好な関係性の構築を目的に、情報交換や連携できる様に共有できる場を設定。岩出山地区の現状と行政各課の状況を情報交換</p>

		<p>することで、各種団体や個人が主体的に動けるシステムの構築についても、イメージ出来るようになった。地域住民が主体的に動けるような環境を整えるためにも、委員会の行政との協力関係が強固なものであることが大事。各種団体の活動もスマートになる様に、更にネットワークを広げて行く。</p> <p>ワークショップの開催・座談会等の対話の場を事業化。</p> <p>◆今年度は、コロナ禍により集まることが難しく、ワークショップについては行っていない。しかしながら、話し合う・対話する、ということをしてきたことで、大きい小さいは関係なく、対話は今後も止めず続けていくことが大切であると気づくことが出来た。</p> <p>【岩出山の本作成座談会 全7回】 ☆Uターン者対象：7月28日 ☆移住者対象：8月30日 ☆20代対象：9月20日 ☆子育てママ対象：9月23日 ☆小学校保護者対象：12月2日 ☆藤島レイ子様：2月2日 ☆元地区館館長：2月4日</p> <p>【意見交換・情報共有・ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩出山高等学校（3回） ・地域づくり委員会での情報共有 （総務部会4回・役員会3回） ・子育てサークルとの情報交換（3回） ・自主防災組織、食生活改善推進員会長、岩出山福祉社会会長との情報交換等 <p>その他（主にコーディネーター研修・全47回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域自治・コミュニティーワーク研修 ・地域包括・認知症等、社会福祉課・社協等関係の研修 ・地域支援コーディネーター意見交換会（大崎市主催） <p>※他【別紙】1.コーディネーター研修一覧参照 ✓</p>
	<p>人材育成等の取り組みについて</p>	<p>コロナ禍ということで、多くの人が集まる機会は失われたが、今年度も、行政各課との連携や社会福祉協議会岩出山支所との連携、子育て自主サークルや各種団体とのネットワークづくりを視野に、小さい集まりをイメージし活動した。人数が多くななくても、逆に得ることが多く、コロナ対策についても、みんなで真剣に考え行動する良い機会と</p>

		<p>なった。</p> <p>担当者オンライン会議も年度内に2回行い、慣れてきたところなので、次年度も継続して企画し、スキルを磨く。コーディネーター二人で、行動することも増え、お互い補い合いながら、良好な運営・企画を行うことが出来た。今後、更に二人の良さを発揮しながら、効果的な、事業の展開が出来るように学び合い、取り組んでいく。</p> <p>事業をストップさせることなく、アイデアを出し合って地域住民との交流が出来た成果は次年度にも繋がると確信している。 /</p>
<p>実態把握・調査研究について</p>		<p>◆自然災害が増えていること、防災への取り組みの意識改革が必要と思えることから、地区公民館との連携し、3月11日に「わたしたちに出来る防災講座」を企画した。 /</p> <p>今年度も親交会長・区長さん、各種団体長さん等へのヒアリング（会話）を行い、防災の取り組みについても調査しながら、講座に役立てた。各親交会毎に環境が違うことから、話される内容は多岐に渡ったが、課題を共に解決していけるような事例を共有し合えるよう発表者を選定し、3名の親交会長さんに事例発表をしていただいた。開催後のアンケートでは、参加者の区長さんや親交会長さん始め、多くの地域民から、防災への意識の強さや前向きな意見を多くいただいた。このような場がきっかけとなり、支え合いの取り組みにつながり、地域住民の防災についての備えや意識が深まっていくだろうと期待できた。 /</p> <p>◆昨年度の「空き家課題学習会」から、移住サポーター兼空き家課題解決担当職員の渋谷が、ライフワークとしても「空き家の相談・解決」に向き合ってもらえるようになったのは大きな成果だった。また、地域住民の意識も高く、空き家の新聞記事を切り抜いて持ってきてくれたりと地域住民の意識も高くなった。自主的に課題意識を深め、動ける人材が増えてくることで、仲間が増え課題解決に向き合う体制づくりが出来ていくことが期待できる。 /</p> <p>◆子育て環境整備事業として、集まることが出来ない代わりに、元武蔵大学の武田信子先生と横須賀聡子さんに記事掲載をしていただき「紙面で交流」ということで、考える機会を作った。当初、フォーラム等も考えたが、地域づくりだよりの周知にもなり、SNS等でも情報発信をし、岩出山の自然の素晴らしさや、田舎の自然な子育てについて共</p>

		<p>有し合う場となったと感じている。また、今後も紙面上やSNS上で読み返すことも出来るので、他の活用方法等も考え、生かしていく。／</p> <p>◆白鳥コーディネーターと子育て世代のママとの関りは、SNS上での交流も含め、多くの課題を共有し合ったり、改善に向け想いを共に語り合ったりと、良い機会となっている。「相談を受ける」という機会にも今後繋がっていけば、各機関に繋がられるよう、信頼関係を構築し更に、行政等とのネットワークを広げバックアップしやすい体制構築を期待する。</p> <p>◆これまで、様々な事業を推進してきたが、多くの人と関り、対話し連携することは「地域づくりそのものだ」ということを感じてきた。多くの人と対話することで多くの気づきをいただき、多くの人と連携し支え合うことで、体制の整備が進み、多くの人と創り上げることが、地域の未来であるべきだと結論付けることが出来た。その取り組みが「岩出山の本」の作成である。／</p> <p>まさに、7回の座談会を開催することで、すでに「岩出山の本」作成に入っているが、渋谷英美さんにプロデューサーとなっていただき、Uターン者や移住者等、多方面の方々との対話は、多くの気づきをもらえている。</p> <p>地域行動計画策定について、本を読めば、岩出山の昔と今、そして未来を描きながら、「みんなでその都度支え合いながら、地域を作っていく」ことの意味を見出せる様、進める。誰かが作った行動計画ではなく、地域みんなで考え作っていく。「今」を感じ、協力し合えること、主体的に動き協力し合えること、を描く本となるよう次年度も進めて完成させる。／</p>
	<p>職員の雇用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配置状況 常勤 ・地域支援コーディネーター1名：千葉暢子 非常勤 ・地域支援コーディネーター補助 2名 白鳥歩 渋谷大輔（空き家担当） <p>地区公民館の館長が、地域支援コーディネーターを兼務し行ってきたモデル事業から、実証事業に切り替わったタイ</p>

		<p>ミングで地区公民館を退職して専属とした。モデル事業時に想定していたとおり、地区公民館の副館長が館長となり、生涯学習推進員としてもスキルと経験を十分に発揮し、地域づくりと連携できる最もよい体制で進められた。一昨年の6月から、コーディネーターの補助として白鳥歩を雇用し、子育てを中心に積極的にネットワークを広げ「他世代ネットワーク」を構築に向け今年度も精力的に活動した。</p> <p>また渋谷大輔に「空き家学習会参加者」としての関りから、課題解決に向き合う職員として雇用。自身のライフワークと共に移住サポーター兼空き家課題解決担当職員として、充実した体制を構築することが出来た。 /</p>
	運営について	<p>常勤職員は1人である為、日常の点検は、随時の総務部会での相談・報告・協議で対応している。</p> <p>地域づくり委員会総務部会において協議し、岩出山地区公民館職員の協力を得ながら運営してきた。役員会で報告し、建設的な意見等をいただきながら円滑な運営ができた。</p> <p>事業のたびに、役員には案内をかけ参加協力の中で、知識を相互に高めながら、協力し合って運営してきた。 /</p>
	初度設備について	なし
	地域の特性や資源を活かし、地域ニーズに即した事業について	<p>(1) 地域団体等の資料整備（各種団体長との懇談） (2) 岩出山地区内人材バンクのシステム構築 (3) 子育て環境整備事業学習会の開催 (4) 子育てサークルメンバーとの連携と人材育成 (5) 岩出山の本作成過程での多くの関わり合いの促進</p> <p>※ワークショップの開催継続、地域づくり視察研修の開催については、コロナ感染状況により実施について検討して行っていく。 /</p>
	備 考	

実証事業交付金収支決算書

歳入

(単位：円)

区分	歳入決算額	決算内訳
交付金	5,120,000	実証事業交付金
雑収入	22	利息
計	5,120,022	

歳出

(単位：円)

区分	歳出決算額	交付充当額	決算内訳
地域行動計画 策定費	199,929	199,929	ヒアリング・企業マッチング・連携事業、地域活性化事業、岩出山の歌完成経費等
人材育成事業 費	299,997	299,997	岩出山の本作成過程（座談会開催）経費、コロナ禍中健康推進事業（U-B aプロジェクト）経費、外部有識者への謝金等、印刷製本費
実態調査調査 研究費	299,532	299,532	空き家課題対策等印刷製本費、情報発信等・情報収集による事業経費・コロナ禍ニーズ調査による事業経費等
人件費	4,119,974	4,119,974	地域支援コーディネーター給与、事務補助員給与、事務手当、保険代等
運営費	200,000	200,000	灯油代、電気代、印刷機利用代等
初度設備費	0	0	
計	5,119,432	5,119,432	

添付資料：領収書の写し